

この世界には
「あきらめない集団」
が必要だ。

年次報告書 2023

2023.2.1-2024.1.31

令和6年 能登半島地震 緊急支援

どんな大災害を前にしても、
私たちは命をあきらめない。

「今年はいいい年になりますように」。
誰もがそう願う一年のはじめの日に、
石川県能登半島で最大震度7の地震が発生しました。

ピースウィンズズの運営する、
災害緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」は、
地震発生の報を受け、即日、医師・看護師やレスキュー隊員、
災害救助犬チームからなる緊急支援チームを派遣。

建物の倒壊、土砂崩れが数多く確認されるなか、
ヘリコプターや船舶を駆使し、
陸・海・空から被災地へ向かい支援活動を展開しました。



Noto Peninsula

これまでの活動レポートはこちら

令和6年能登半島地震 緊急支援

検索

https://arrows.peace-winds.org/lp/support_noto_earthquake/

ARROWS=矢のように 速く被災地へ

—能登半島地震の支援で見てきたこと—

稲葉 基高

Mototaka Inaba

空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"
プロジェクトリーダー

大西 健丞

Kensuke Onishi

ピースウィンズ・ジャパン代表理事

2024年元旦16時10分—。それぞれが新年を祝っていたその時、能登半島で最大震度7の大地震が発生。空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"は、発災後10分以内に出勤を決断、4時間後には出発、22時間後に石川県珠洲市に到着し、支援活動を開始しました。それから被災地は一步步復旧・復興に向かい、医療を地元機関に引き継いだ3月末、緊急支援チームは活動を終了。現在は、日常を取り戻すための復興支援を続けています。今回の対談では、3か月間の緊急支援の成果と課題を振り返り、ARROWSそしてピースウィンズが今後どのような災害支援を目指していくのか考えます。

元旦であっても、 一秒でも早く現地へ

【大西】 元旦の災害というのは、日本人にとって一番難しい状況だったのかもしれない。普段とは違う場所で過ごしていましたよね。

【稲葉】 はい。実は年末に「年末年始、帰省してもいいですか」と看護師から声が上がリ、チームで話し合いました。看護師は普段、当番制で本部の神石(広島)に必ず誰かがいるシフトを組んでいますが、四国や関東など実家が遠い者もいました。話し合いは20分間の沈黙の後、私が「帰っていいよ。ただ、何が起きるか分からないから、日ごとに誰が最初に来るかだけは決めておいてほしい」と話しました。

だから1月1日も、想定されたシフトに沿って、比較的早く集まることができました。**出勤時刻も他団体と比べて早く、「初動の早さ」は私たちの強み**だと感じましたね。ただ、普段は2〜3時間以内の出勤が目標ですが、今回は出勤まで4時間弱かかり、反省点でもあります。

【大西】 「一秒でも早く」の共通認識が、迅速な出勤につながったのだと思います。さらに珠洲市の場合は、2023年5月に震度6強の地震が発生した際に支援した経験があったので、素早い判断につながりました。

【稲葉】 **大西さんのGOで出勤できるシンプルな組織なので「デジジョンメイキングの力」も私たちの強み**だと感じました。

【大西】 私は躊躇しませんでした。元旦なので遠慮と察しが働いて、準備万端なのにGOが出ない団体もあったと思います。

【稲葉】 元旦、私が地震を知ったのは、両家の親と子どもたちと見ていたテレビで。私が「行くわ」と言うと、母親は「あんたが行かんといけんのん?」と慌てていましたが、妻はすっかり慣れていて準備を手伝ってくれました。子どもたちも「お父さん行くんだな」と理解していた様子でした。2019年にARROWSというプロジェクトを立ち上げて5年。チームのメンバー、そして家族までも**「ARROWSが行けば何かできることある」**と気づいてきたと思うんですね。

【大西】 それに気づくと、だんだん自信がつき、技術も上がり、装備も良くなり、初動がどんどん早くなっていきました。**ARROWSの「核」や「軸」となるものが出来上がってきた**のだと思います。

被災者の ワンストップステーションに

【稲葉】 今回の支援活動で浄水器を持参したところ、自衛隊より早く川の水を浄化できました。救護所に来たおばあちゃんは水がなくて困っていたので、ARROWSが水を届けたんです。今回は、ARROWSの水提供と自衛隊の給水と水道管の復旧作業がバラバラに行われていたので、水支援全体のコーディネートが必要だったと感じました。災害のたびに思うのは、「医療だけやっていても人を救えない」ということです。

【大西】 被災者から見たら「ワンストップステーション」が一番有難いと思うんです。縦割り行政で「水はあっち、服はこっち」と言われても、1人の生活には全部必要。それをワンストップで迅速に提供できるチームは、今までありませんでした。

【稲葉】 私たちは医療はもちろん、水や燃料、衣服、食事、ダンボールベッドまで用意できる。これは、いろいろな企業がバックアップしてくださっているからこそですね。

【大西】 はい。1,000社以上もの企業が、物資・ロジスティック・資金を提供してくださっているので、ここに「コレクティブインパクト」（異なる強みを持つ団体同士が協働し、共通の課題を解決しようとする）が生まれています。

【稲葉】 今回の支援活動では、船が出動して災害現場で運用できたのも、大きな一歩でしたよね。

【大西】 そうですね。ただ、船という断片だけで災害支援は完せず、船とヘリコプターと陸上部隊、それぞれが強みを生かし、弱みをカバーし合って一つのチームができます。例えば、ヘリコプターは空中に4時間しかとどまらず、重いものを運べません。ただ、物凄く速く移動でき

る。一方、船は海上にずっと浮かんでいることができ、多くの人や物資を運べます。ただ、移動が遅い。それぞれにプラス面とマイナス面があり、補完し合っているんですね。そして陸上部隊も含めて、陸・海・空で一つのユニットを形成しているのです。

【稲葉】 災害時だけチームを作るのではなく、平常時から陸・海・空と一緒にチームを運営する体制が望ましいですね。

【大西】 はい。船員や看護師がヘリコプターに乗ったり、航空部隊が船の構造を理解したりすることで、お互いがカバーし合い、支援に相乗効果が生まれます。船だけの人、医療だけの人と分けると、蛸壺に落ち込んで視野が狭くなってしまいます。

【稲葉】 大事なのは、船と船員のスペックというより、「何ができるチームを乗せるか」ということですね。

珠洲の支援活動で 見つかった課題

【大西】 珠洲の支援で、課題もいくつか見つかりました。

今回の発災は冬の16時台、日没が迫っていました。暗い中、ヘリコプターを飛ばすのはリスクが高いため、今回はあきらめて当日は陸上部隊のみの出動に。ただ、災害はいつ起きるか分からないので、夜間でもヘリコプターを複数機飛ばす技術は必要だと改めて思いました。それは航空機でも船でもいいのですが。

また、私たちが支援できるキャパシティもまだまだ不足していると感じました。今回、珠洲と輪島に大きな被害が出たので、可能なら両方を支援したかった。でも、私たちの今の実力では片方しかできないと考え、珠洲のみと判断しました。

【稲葉】 やはり人員不足は否めなかったですね。

【大西】 23,000人（輪島）と13,000人（珠洲）の地域を二つ同時に支援できなかったことは大きな反省点です。このキャパシティを真剣に上げていかないと、最大死者32万人、避難者950万人が想定（内閣府 HP）されている南海トラフ地震などの大規模災害が起きた時に、全然カバーできない。たとえ10時間

遅れても、もう一つの町に調査車を出して、酷い状況と分かれば手当ができる体制にしたい。10～20万人規模だったら、私たちがだけで医療面をカバーできるぐらいの実力が欲しいです。

【稲葉】 今はマンパワーリソースが足りないと感じています。最近ではARROWSにロスター（登録隊員）制度ができて、800人ほど登録があるので、彼らのトレーニングが必要です。経験値の高い方も多いので、チームとして動く際のルールを確認しておきたいと考えています。



【大西】 「はじめまして」では一線級のチームになれない。チームとしての訓練で体験を共有し、互いの性格なども知っている状態までもっていきたい。800人いるということは大きな希望なので、精鋭チームが短時間で現場に入れるように準備していきたいです。

民間のプラットフォームが コレクティブインパクトを生む

【大西】 ここまでARROWSの取り組みについて話してきましたが、日本の大規模災害の支援体系全体に視野を広げてみると、実は、医療分野を除いて、100年前の関東大震災の時に作られたひな形からほぼ変わっていません。体育館や公民館に被災者を押し込んで、基礎自治体が支援するパターン。それでは健康な人まで不健康になってしまい、こんな支援をしている先進国は他に聞いたことがありません。私たちは「100年前のスタンダードでいいのか」「災害対応は基礎自治体任せでいいのか」と問い続けなければなりません。

【稲葉】 家族が被災している自治体職員が旗を振って災害対応をするのは無理がありますよね。私は官民連携型の組織をつくり、旗振り役を務めるべきだと考えます。海外の事例を見習い、ヘルス(医療)・ウォッシュ(衛生)・フード(食料)などの専門家が集まって訓練を積み、官民協働の『DMAT』のフレームを応用して、『DGAT』(Disaster Government Assistance Team)という組織をつくるのはどうでしょうか。

【大西】 なるほど、確かにDMATは成功事例ですね。私の提案としては、**民間でまずプラットフォームをつくること。「行政が進めてくれないから」とあきらめるのではなく、「民間でやってやる!」**と思うんです。民間のリソースを調達して、市民同士の自発的意思で被災者を助けるプラットフォームに、行政も入ってもらう形が、日本の風土に合うのではないのでしょうか。

【稲葉】 今回の支援では、ARROWSと珠洲市ががっちり手を組んで「この方向を向いてやるんだ!」という雰囲気がつくれたこ

とで、DMATも赤十字も同じ方向を向いてくれて、スムーズに支援できました。私たちのように、民間ならではの機動力と意思決定の自由さがあって、さまざまな団体とコラボレーションできる組織が必要なのは間違いないと思いました。

【大西】 ARROWS=矢のように被災地に飛んで入り、まず支援を始める。そこにたくさんの支援機関を集め、私たちがハブやボンドとなることで、コレクティブインパクトを生み出す。そしてARROWSの「核」を10倍、20倍にジャンプアップさせて大災害に備えていきたい。今日話してきたような新しい災害支援の形を実現するには、平常時にも寄付していただけるような仕組みや、国民運動のような国民全体の行動力も必要です。もう政府や国会議員にお願いをして回る暇はない。被災者950万人規模の大災害が迫っているのですから。

【稲葉】 私には子どもが3人いますが、彼らが大人になった時に「イケてない日本」を残したら恥だと思うので、父親として、日

本人として、「素晴らしい日本」を次の世代に渡したい。だからこそ、災害支援の課題を政府任せにせず、自ら取り組んでいきたい。それがARROWSにいる意味でもあります。

【大西】 地質学的な危機や試練が迫っていますが、それは一方で私たちが良い国を目指すチャンスでもあります。政治家にならなくても、社会の仕組みは変えられる。**ピースウィンズがプラットフォームとなり、官民や業界を問わず、国民全体でコレクティブインパクトを起こし、災害支援にイノベーションを起こしたい**と本気で考えています。



当書未収録の
トークも!

対談の動画は
こちら



対談日/2024年4月25日

能登半島地震発生後 1週間の動き

現地
派遣者数計 約 **88人**

うち
医師 **8人** 看護師 **17人**

最大
同時支援者数 **41人**

※2024年2月16日時点



緊急支援チームが現地で活動を開始

総勢19名の緊急支援チームを結成し、**現地にて支援活動を開始。**
医療チームは、避難所に臨時診療所を開設。
災害救助犬ロジャーを含むレスキュー隊は
消防からの要請を受け、**捜索・救助活動**にあたる。

1月2・3日

陸・空・海の全方向から被災地を支える

海路からの輸送ルートを確認し、
船舶「**豊島丸**」による**物資支援**を開始。
避難所で浄水装置による**給水支援**を開始。
飲み水や生活用水を提供。

1月5日



被災した動物にも支援を

Wi-Fiが使えなかった避難所で、
Wi-Fi(Starlink)スポットを開設。
被災したペットの一時預かりや
フード供給など、ペット支援についての
ニーズ調査を開始。

1月7日

1月1日

医師・看護師・災害救助犬など緊急支援チームが出動

地震発生を受け、緊急支援チームが
石川県珠洲市に向けて出動。



1月4日

一秒でも早く患者を助けるために

緊急支援チームはスタッフ総勢23名に増員。
ヘリコプターチームは、病院からの要請で**患者の搬送を担当。**
県の要請を受け、輪島市の北にある島の
被害状況確認にヘリで向かう。

1月6日

あきらめない捜索で124時間ぶりに女性を救助

ヘリコプターを駆使し被害状況の調査、孤立集落への医療支援を開始。
発災から124時間後に倒壊家屋から**90代の女性が奇跡的に救助**される。
現場での救助医療処置を空飛ぶ捜索医療団「ARROWS」の
プロジェクトリーダー、稲葉医師が担う。

数字で見るピースウィンズ

ピースウィンズは、1996年のイラクでの支援活動から現在までに、
39の国と地域で活動し、2,600万人以上の人びとに支援を届けてきました。 ※2024年1月31日現在

| SINCE 1996 |
設立

28周年

| NUMBER OF STAFF |
スタッフ数

614人



| TOTAL BENEFICIARIES |
累計受益者 ※世帯や地域、動物、学校単位などは含まず

26,142,086人

| TOTAL SUPPORTING COUNTRIES |
累計支援国

39の国と地域



| NUMBER OF RELEVANT SDGs |
関連SDGs数

16個 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この世界には 「あきらめない集団」が必要だ。



世界中で起きる災害や紛争、多くの人が「解決は無理」と思っている社会課題に対して、
私たちは決して解決をあきらめません。

海外事業

| OVERSEAS OPERATIONS |



1996年から紛争や貧困、災害などによる人道危機や、生活の危機にさらされた人々の支援を続けており、世界各地に支援を届け続けています。

NUMBER OF BENEFICIARIES |

延べ受益者数 2023年度 ※世帯や地域、動物、学校単位などは含まず

2,903,733人

+696世帯+306頭+その他 不特定多数

NATIONALITIES OF STAFF |

スタッフ国籍

30カ国

イラク、ウガンダ、ウクライナ、オーストラリア、カメルーン、ケニア、シエラレオネ、スリランカ、タイ、タジキスタン、トルコ、ネパール、ハイチ、バキスタン、パラオ、パレスチナ、バングラデシュ、フィリピン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、ミャンマー、モザンビーク、モルドバ、レバノン、韓国、台湾、中国、東ティモール、南スーダン、日本 2023年度

災害支援事業

| EMERGENCY DISASTER RELIEF |



一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、レスキュー活動から医療・物資・避難所運営支援などを被災地で実施する事業です。

TOTAL FREQUENCY OF DISPATCH |

累計出動回数

1996年以降
空飛ぶ捜索医療団
構成団体の活動も含む

71回



NUMBER OF DISASTER COOPERATION AGREEMENTS |

災害連携協定
締結団体数

空飛ぶ捜索医療団
構成団体の協定先も含む

52カ所



保護犬事業

| PEACE WANKO JAPAN PROJECT |



人間の身勝手によって生み出される犬の殺処分をなくし、ペットと人間の共生を実現する目的で運営される、犬の保護・譲渡事業です。

TOTAL NUMBER OF DOGS RESCUED |

命を救った犬の数 2024年1月31日現在

8,163頭



NUMBER OF DAYS NOT KILLED IN HIROSHIMA |

広島県で犬の殺処分機が動いていない日数

ガス室による殺処分

2,862日間



トルコ・シリア地震

Türkiye / Syria

2023.02.06



ハワイ・マウイ島山火事

Hawaii

2023.08.08

モロッコ地震

Morocco

2023.09.08

パレスチナ・ガザ侵攻

Gaza

2023.10.07

世界で相次ぐ紛争や災害 そこには私たちと同じ「普通の人」が暮らしている

私たちにとっての2023年度は2月6日のトルコ大地震で始まりました。隣国シリアと合わせて約6万人が犠牲になる大災害でした。国際的な支援調整や各国のレスキューチームより先に災害現場に着くほど展開が速かったため当初の態勢は十分ではありませんでしたが、現場チームの柔軟な対応によって発災直後から医療と物資の支援を行うことができました。余震が続く中での安全確保、通訳や車両の手配、空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"と海外事業部の役割分担や、会計を含む後方支援の調整など、**多くの課題を検討しているうちに次の緊急事態が起きるような1年でした。**

5月にミャンマーで巨大サイクロン、8月にハワイ・マウイ島で大規模な山火事、9月にモロッコ大地震とリビアの洪水、10月にイスラエルによるガザ攻撃が始まり、アフガニスタンで大地震が起きて、12月には中国内陸部で大地震。そして2024年正月に能登半島大地震が起きました。

世界のどこでも大災害が起きた時に把握できるよう、太平洋津波警報センターやアメリカ地質調査所などの警報を常に受け取っています。発生を知るとARROWSチームも交えて緊急対応を相談。災害規模や人的被害、日本からの距離や言葉の問題、人や物のリソースがあるかなど様々な要素を検討して、**数時間で支援ができるかを判断し、その日のうちに動き出します。**残念ながら支援を断念したケースもあります。

海外事業部にとって2023年、最も苦しかったのがガザ情勢でした。私たちは2015年からガザ地区で支援活動を行ってきました。それが10月7日ガザ地区から大量のロケット弾が発射されたことへの報復としてイスラエルの激しい攻撃が始まり、スタッフや提携団体の人たちが、空爆から逃れる際に連絡が取れなくなったり、自宅や事務所を爆撃されるなか、何もできないもどかしさを感じました。そんな中でも養鶏場から鶏を買って配付し、生産者から買った野菜を配るなど、地元で根ざしたNGOだからこそその緊急支援を始めました。エジプトとの国境が開くとトラックで支援物資も運びました。

いつも思うのは、紛争でも災害でも、そこに普通の人々が暮らしていること。**困っている人がいて、やれることがあるなら、やる。**経験を積んできた私たちには大概のところ
でやれることがあるのです。

海外事業部長

山本 理夏 | Rika Yamamoto



ジャパン・プラットフォーム常任委員、NGO安全管理イニシアティブ (JaNISS) 世話人などを兼務。大学卒業後、米国のオハイオ大学 大学院にて国際関係学・国際政治学を学ぶ。2000年よりピースウィンズでアフガニスタン、イラク、南スーダン、ウクライナなど紛争地における人道支援、トルコ地震や国内外で発生する地震、サイクロンや干ばつなどの自然災害に関わる。現在は海外事業全般を統括し、緊急支援の立ち上げを指揮するほか、長期化する事業地への対応や方針の策定を行う。

海外事業

| OVERSEAS OPERATIONS |

NGOと言うと

“ボランティア精神”と見られがち。

だけど、それだけで通用するものじゃない。

やっぱり「プロ意識」がなければ。

南スーダン、ケニア、ハワイ事業サブマネージャー

薄井 真希 | Maki Usui |

中学・高校の6年間でインドで過ごし、国際現場での仕事に興味を持つ。地元栃木県の福祉施設にて障害者支援に携わった後、青年海外協力隊としてルワンダの豊学校で2年間活動。その後、米国ミシガン大学大学院にて国際ソーシャルワーク（コミュニティ・オーガニゼーション）を学び、実習や研究を通して難民支援に触れる。卒業後2019年末よりピースウィンズに入職。ウガンダ、ケニア、南スーダン、ハワイ事業等を担当している。

紛争・難民支援

パレスチナやウクライナ、アフガニスタン、シリア、ミャンマーなど世界各地での紛争は終わらず、支援のニーズは拡大、多様化の一途をたどっています。紛争や迫害などを逃れて自国を離れた難民の数は1億人を超えています。現地にスタッフを派遣し、提携団体と連携しながら困難な状況にいる人に対し、支援を直接届け続けています。



パレスチナ・ガザ市内で爆撃を受けた建物の前にたずむスタッフ



ロシア侵攻後の支援

ウクライナ ————— | 2022年～現在 |

ロシアによる軍事侵攻以降、住民の退避支援及び国内避難民や避難民受け入れ地域住民に対する食料・日用品の配付、病院への医療機器等の提供、幼稚園の修復と整備、学校への音楽や体育器具等の提供を実施しました。さらに、女性の心身の苦痛を軽減するため、巡回診療とカウンセリングを開始しました。



ガザ市民への支援

パレスチナ ————— | 2015年～現在 |

12の幼稚園で幼児向けの心理社会的支援および教員向けの研修を実施しました。また、若者に就労の機会を提供するとともに、教育支援として教育施設に太陽光パネルやIT教育備品を設置しました。2023年10月のイスラエルとガザ間の武力衝突後は、食料等を配付する緊急支援を実施しました。

Staff Interview

誰かがやらないといけない仕事をしている

ウクライナ事業担当

ラディスラフ・レシュニコフスキ | Ladislav Lesnikovski |

ウクライナの首都キーウに駐在し、ウクライナスタッフと共に仕事をしています。学生時代からJICAや日本のNGOに関わり、日本の大学院で平和構築・紛争予防学を学びました。突如日常が奪われた人たちを支えるのは誰かがやらないといけない仕事です。できることは小さいけれど、今、自分がそれをやっているのは、うれしいことだと思います。それが、ここにいる理由かもしれません。



Staff Interview

「自分たちは、世界からまだ見捨てられていないのだ」。

パレスチナ事業担当

矢加部 真怜 | Masato Yakabe |

多くの人がとる努力によって、日本でもガザ情勢への関心が高まってきました。ガザにいるスタッフはとても喜んでます。自分たちは、世界からまだ見捨てられていないのだと。少しでもガザの人びとにとって希望となり、生き延びるエネルギーになることを願い、これからも支援活動の続けながら、現地の状況を発信し続けていきたいと思っています。



医療・衛生支援

不衛生な環境や水不足などへの対応や、最低限の栄養のバランスが整った食生活を送るための支援は、災害直後の地域だけではなく貧困や社会格差が問題となっている場所でも大切です。急な災害などで地元の医療が対応しきれない場所への医師や看護師の派遣や、地域の医療者と連携しての感染症や生活習慣病などの改善にも取り組んでいます。



ブルキナファソから来日して検査方法などを視察する現地患者団体の代表



船による巡回検診

パラオ ————— | 2021年～現在 |

パラオ国保健省及び国立病院と連携し、離島を含むパラオ国全住民を対象に病院船を用いた巡回検診・診療による非感染性疾患（生活習慣病）の予防体制強化事業を継続しています。1年間で418名が検診を受診しました。現地医療関係者への能力強化研修、住民への食生活に関する啓発活動も実施しています。



B型肝炎対策

ブルキナファソ ————— | 2023年～現在 |

ワガドゥグー市およびボボ・ディウラッソ市で、慢性B型肝炎患者の人びとが手遅れにならずに検査を受けられるように、診断インフラを確保するために医療検査機器を国立ムラズ研究所へ提供し、現地NGO2団体の協力のもとに検査支援体制をサポートしています。



母親と子どもの支援

ミャンマー ————— | 2013年～現在 |

2021年以降の国内戦闘やサイクロン上陸により国内避難民が多く発生した地域で食料や生活物資等を配付しました。また妊産婦に対して安全な出産育児のための母親支援キットの配付も行いました。ミャンマー国内の戦闘を逃れタイへ避難した母子に巡回子育てワークショップを実施しました。



障害者への支援

モルドバ ————— | 2022年～現在 |

モルドバにてウクライナ避難民への物資・教育支援に加えて、医療支援を継続しています。医師とソーシャルワーカーから成るモバイル・チームが、避難民とモルドバ人の慢性疾患のある障害者のうち病院に行くことが難しい人びとを戸別訪問し、それぞれが必要な医薬品や補助器具等を延べ600人以上に提供しました。

環境／気候変動・災害支援

気候変動による大規模な洪水や干ばつ、猛暑や豪雨等の災害が特に甚大化しています。世界各地で発生する地震や津波などの災害に対応し、医療や救助犬チームの緊急派遣、支援物資の提供など迅速に展開しています。物資提供や医療・衛生、教育などの支援だけでなく、災害に対する脆弱性を減らすための農業の再建や地域防災の仕組みづくりなど、中期的な支援にも対応しています。



モロッコの山間部で避難生活を送る地震被災者と支援を届けたスタッフ



食料配付と現金給付

アフガニスタン ——— | 2001年～現在 |

ナンガルハル県において脆弱世帯への食料用現金給付支援や女子校への仮設教室・図書館の設置、備品支援を実施しました。バクティカ県およびヘラート県では地震被災世帯への食料および生活物資の配付や現金給付支援を行いました。



被災者の心のケア

シリア ——— | 2013年～現在 |

長引くシリア危機によって基礎的サービスの欠如や物価高騰に伴う食料危機などに直面していた中、2月にトルコ・シリア大地震が発生しました。長年の不安定な生活環境に加え、さらに厳しい状況に置かれた被災者を対象に食料を配付し、心理的応急処置を行いました。



水の確保と生計向上

ネパール ——— | 2015年～現在 |

2015年の地震の震源地シンドゥバルチョーク郡では、現在でも地震の影響による地下水の枯渇や、住宅再建の借金などにより生活に困窮する人びとがいます。安全な水の確保のために給水施設を建設、生計向上のために野菜の栽培技術や販売促進を支援しました。



感染症まん延予防

モザンビーク ——— | 2019年～現在 |

ほぼ毎年サイクロンの被害を受けているモザンビークでは、発災後にいち早く被災地へ向かい、ニーズ調査や緊急支援を行っています。被災後は洪水や浸水で衛生環境が悪化し、下痢やコレラなどの感染症が発生しやすくなるため、水の浄化剤や水容器などの衛生用品を配付し、トイレ建設や手洗い実施などの衛生啓発活動を行いました。



1 イラク — 1996年～現在 —

イラク北部アルビル州とドホーク州のシリア難民キャンプに居住する難民を対象に生計支援を兼ねた住まいやキャンプ内インフラの改善支援を行いました。またネネワ州の帰還民への職業訓練を実施しました。

2 南スーダン — 2006年～現在 —

中央エクアトリア州とアッパーナイル州の国内避難民キャンプおよびホストコミュニティにて、洪水や紛争、食料危機の影響を受けた人びとに対して給水衛生支援、食料支援、漁業技術の普及を通じた生計支援を実施しました。また、2023年4月のスーダン危機で避難してきた帰還民への食料支援、スーダン難民らへの給水衛生支援も実施しました。

3 ケニア — 2012年～現在 —

北部カクマ、ダダブの難民キャンプ、カロベエイ統合居住地区と周辺コミュニティにおいて、水衛生、シェルター、ロジスティックス分野の基礎サービスを提供する傍ら、持続可能な管理を目指し、給水システムの改善、住民の主体的参加促進、企業連携等に取り組みました。また、北西部では衛生管理の一環として、適切な固形廃棄物管理へ向けた支援等を行いました。

4 ウガンダ — 2016年～現在 —

ウガンダ北部インヴェビ及び西部チャカII難民居住区において、南スーダンとコンゴ民主共和国からの難民と難民居住区周辺で生活するホストコミュニティの人たちのために、女性の自立を支援し保護の仕組みを強化する支援を行いました。また、西部では給水設備と衛生環境を改善する支援も行いました。

5 スリランカ — 2009年～現在 —

トリンコマリー県内の内戦後の再定住地域を中心に農業用灌漑設備の修繕・設置を行い農作物の収量増加に貢献、有機農業技術の普及促進を行い78名の農家が有機認証を新規取得・更新しました。また地元で手に入る資源を利用し、化学肥料・農薬の使用を削減する循環型農業の普及・促進事業を開始しました。

6 モンゴル — 1996年～現在 —

貧困や親の育児放棄などの事情で、養護施設「ヴェルピストケアセンター（VCC）」に保護され生活している50人の子どもたちへの支援を継続しました。





命を見捨てない。 世界の平和を あきらめない。

14 America

12 Haiti



HOW TO SUPPORT

「ピースサポーター」

月々1,200円～

になってピースウィンズの活動全般を支えてください。

毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ピースサポーター 検索

<https://peace-winds.org/jp/psupporter/>



9 モロッコ ———— | 2023年～現在 |

2023年9月にモロッコ中西部で発生した大地震直後は被災者への物資支援を行いました。その後は女兒に対して、月経衛生管理の改善を目指したワークショップ開催や再利用可能な月経用品などの月経衛生管理キットの配付を行うとともに、被災動物への支援（飼料、シェルター、医療）を行いました。

10 中国 ———— | 2023年 |

2023年12月18日に甘粛省で発生した地震に対応し、現地団体「公羊会」と連携して活動しました。レスキュー隊員29名と救助犬2頭を甘粛省の蘭州市に派遣し家屋の捜索などを行ったほか、気温マイナス15度で寒かったため、暖房器具、毛布やコートを配付しました。

11 東ティモール ———— | 1998年～現在 |

インドネシアの専門家を招聘し、コーヒーの生産量が減ってしまう主な原因である、コーヒーの木の老齢化を食い止めるためのコーヒー圃場リハビリテーション事業を実施しました。また引き続き、近年続いている異常気象の対策として、コーヒー生産者に対する森林保全の啓発活動を実施しました。東ティモール人スタッフを日本のコーヒー見本市に派遣し、販売先の拡大を行いました。

フェアトレード事業 ———— | 2003年～現在 |

コーヒーのギフトセットのクッキーは福祉施設に作ってもらっていますが、新しくクッキーを作ってくれる事業所さんが増え、お取引のある福祉施設が3カ所になりました。また、2024年1月に起こった能登半島地震を支援できる寄付付きのコーヒーを販売したところ、たくさんの方に応援いただきました。



12 ハイチ ———— | 2018年～現在 |

2021年8月の大地震の被害を受け、また大統領暗殺後、治安がますます悪化し物価高騰や就職困難な状況にある南県アニケ郡タバーン村の若者たちが"手に職をつけ、自立できるように!"を目指し、洋裁技術やマーケティング知識を学べるよう研修を実施しました。

13 バングラデシュ ———— | 2017年～現在 |

97万人以上のロヒンギャ難民を受け入れるコックスバザール県で、難民とキャンプ周辺住民を対象に、保健医療・衛生分野の支援を実施しました。キャンプ内の診療所では基礎的医療サービスや健康教育を提供し、キャンプ内や周辺地域の地域保健人材を育成して住民に対する啓発活動を行いました。

14 アメリカ ———— | 2023年～現在 |

2023年8月のハワイ島大規模火災を受けて、火災発生直後はニーズ調査、緊急物資配付、さらに被災したペットのための医療ケア、ペット用品購入などの資金的援助を実施しました。中長期的な支援として、被災コミュニティに向けたサポートグループやイベントの開催、専門家の対応能力強化研修の実施等、心理社会的支援を行っています。

災害支援事業

| EMERGENCY DISASTER RELIEF |

世界の裏側で災害や紛争が
起きたとしても、
海はつながっている。
船と燃料、そして仲間さえいれば、
世界は手の届く範囲なんです。

災害医療支援船 船長

杉本 陸 | Riku Sugimoto |

2018年入職。富山県の船員養成学校を卒業後、海運会社に就職し国際航路の航海士として貨物輸送に従事する。船舶が持つ力を人道支援に役立てることができると思え、ピースウィンズに入職。海外NGOが運航する病院船への研修出向やパラオでの巡回検診船事業などを経て、現在災害医療支援船 Power of Changeの船長を務めている。

助かるはずの命のために

災害医療支援船

大規模災害時には、道路の寸断や医療機関の被災、患者の大量発生などにより、本来助かるはずの患者が必要な手当てを受けられない恐れが指摘されています。陸路が寸断された被災地では、空と海の活用が災害対応の肝になります。ピースウィンズでは、2023年7月より3,500トン級の災害医療支援船「Power of Change」の本格導入を開始しました。



スペック

長さ/68.00m 幅/17.40m 喫水/4.50m (計画)、5.02m (最大) 最大航続距離/6,000マイル (8ノット)
最大搭載人数/49名 巡航速度/12ノット (経済速度8ノット) 建造/2011年

都市型災害に備える

空と海の立体的支援体制



首都直下地震では、発災直後から深刻な道路交通麻痺が予測されています。医療スタッフが病院にたどり着くことが難しく、数千人の傷病者が「未治療死」と推計されています。



ピースウィンズでは、災害医療支援船とヘリを連動させ、空と海からの支援体制を構築。災害支援の経験豊富なピースウィンズをはじめ民間の医療チームの力を結集し、未治療死を防ぎます。

災害時の「船舶」の可能性

令和6年能登半島地震での「豊島丸」の活躍

発災直後、陸路でのアクセスが難しかったため、ピースウィンズの船舶「豊島丸」が能登半島に向けて出航。食料や燃料などの物資を被災地に届けました。



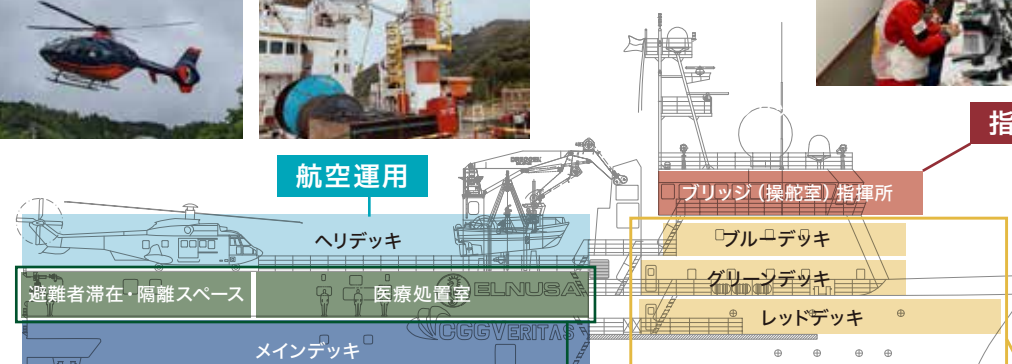
都市型災害に備える

災害医療支援船“Power of Change (PoC)”

ヘリパッドを備え、災害支援時の洋上基地として、傷病者や被災者の受け入れ、診療、物資・燃料の補給等に活用します。



指揮・情報



支援物資倉庫等多目的スペース



医療処置



隊員居住



東日本大震災被災者支援

2011年～現在



地元提携団体の「相馬救援隊」と連携し、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難生活から故郷に戻った人たちや、新たに福島での生活を始めた人たちが、相双地域で昔から受け継がれてきた馬との交流を通じてつながりをもつことができるように支援しています。

西日本豪雨被災者支援

2018年～現在



2018年西日本豪雨発生から5年。最後の集会所の再建が完了し、集会所に必要な机やイス等の集会所備品を支援。集会所支援を終えることができました。また、コミュニティの拠点として箭田地区の土師邸の修繕工事を始めることができました。2024年4月完成を目指しています。

地域防災力強化事業

2019年～現在



地域防災力強化事業では、米国政府の助成金を活用して日本全国を対象に災害へのレジリエンスを高める取り組みをしています。自治体や自主防災組織の防災訓練への参画、子どもたちへの防災教育、大規模災害被災地の経験共有の機会を提供するなどの取り組みを行っています。

Staff Interview



一人ひとり、みんなで災害に備えれば “悲しい涙”を減らすことができる

地域防災力強化 本部事業担当

バビナ・スベトラーナ | Svetlana Babina

2015年に東日本大震災で被災した福島県相馬で英語のボランティア教師として活動をしていたとき、ある女性が目に涙を浮かべながら震災について話をしてくれたことがありました。涙は目からこぼれることはなく、でも深い悲しみがあふれ出てくるその表情が忘れられずにいます。「こんな悲しい涙をなくしたい」。その思いが、地域防災力強化事業に携わる、今の私の原点になっています。防災は、専門的なことだけでなく、一人ひとりにできることがあります。みんなで災害に備える意識を高めていくことで、少しでもあの悲しい涙を減らすことができます。そう願っています。

医療・レスキュー事業



月々1,000円~

HOW TO SUPPORT 「ARROWS サポーター」

になって災害緊急支援活動を支援してください。

「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の活動は、全国のみなさまのご支援・ご寄付によって支えられています。一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ARROWSサポーター

検索

<https://arrows.peace-winds.org/lp/asupporter/>


空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"を運営し、月例訓練に加え、災害時を想定した多機関連携災害時医療救助訓練など実災害に備え平時から準備をしました。実災害ではトルコ・シリア地震、能登半島地震へ医療チームを派遣し、災害救助犬による捜索活動や救護所での診療など超急性期から支援を展開しました。

Staff Interview

目の前の人だけでなく
その後ろにいる
支援が必要な多くの
人たちのために

看護師

菊池 友枝 | Tomoe Kikuchi |

災害に必要なのは、医療支援だけではありません。一人でも未治療死や災害関連死を防ぐために、被災者の生活や環境、文化などの背景も考えながら、医療だけでも緊急期だけでもない、きめ細かくチームレスな支援ができるチームを目指します。



陸・空・海を使った
災害支援を初めて実現。
この経験を生かして
より革新的な災害支援チームへ

調整員

田邊 圭 | Kei Tanabe |

能登半島地震の震災において、新しいチャレンジとして船を使った支援を実現できたことは、チームにとって大きな出来事となりました。大切なのは"これから"。今回の経験を生かして、より革新的な災害支援チームを目指していきます。



保護犬事業

| PEACE WANKO JAPAN PROJECT |

ドリームボックス(殺処分機)の中でもがき苦しみながら消えゆく命など決してあってはなりません。
どんなワンコにも幸せになる権利があります。

シェルターサブマネジャー

芦塚 望美 | Nozomi Ashizuka

幼い頃から動物好きで、動物に関わる仕事に携わりたいという夢を持つ。中学生の頃に実家で迎えた保護犬の存在に救われ、その子への恩返しの意味もあり、犬の保護活動を行っている団体を探していたところ、通っていた専門学校の企業説明会にてピースワンコと出会う。現在は検疫シェルターで働きながら、シェルター全体のサブマネジャー兼医療責任者を務める。

犬の保護・譲渡事業

2010年～現在

2016年4月から続く広島県内の処分予定の犬の引き出しを始めてから約8年。保護数は8,000頭を超え、4,000頭以上を譲渡につなげることができました。2023年8月に新設された広島県動物愛護センターに殺処分機（ドリームボックス）はありません。約7万人のサポーターに支えられている私たちの活動が、殺処分機廃止の一助になることができたと思います。2023年6月に始まった飼育スタッフの人員規制に対応して新規採用を増やし、研修などによる人材育成にも取り組みました。「殺処分ゼロ」の全国展開に向け、他の保護団体との連携を図るべく、他県で調査も始まりました。



2023年11月、ピースワンコの9番目の拠点となる「浜松譲渡センター」を開設。頭打ちの傾向がみられていた譲渡数を伸ばすことができました。各譲渡センターでは譲渡会やイベント、SNS活動に工夫して取り組み、譲渡活動を活性化することができました。また、他県でのセンター開設のための準備も始まり、「全国殺処分ゼロ」実現を目指す活動は、一步一步、確実に前進しています。

保護施設・譲渡センター

施設は現在、全国で10カ所

神石高原シェルターで保護し、健康状態を良くして、人馴れトレーニングを行った犬が、各譲渡センターで暮らしています。スタッフが日常のお世話をしながら、里親希望の方に保護犬の特徴や性格などをご紹介します。



神石高原シェルター

ピースワンコ・ジャパンの本拠地は、自然豊かな広島県神石高原町にあります。広々とした西日本最大級のドッグランもあり、犬と人がのびのびと遊べます。

NEW 福岡譲渡センター

※2024年7月オープン

東京あきる野 譲渡センター

岡山 譲渡センター

世田谷 譲渡センター

湘南譲渡センター NEW 浜松譲渡センター

生駒譲渡センター

福山譲渡センター

広島譲渡センター

Staff Interview

どんなワンコでも おうちで幸せに。 終生預かり ボランティア開始

譲渡マネージャー

上谷 祐実 | Yuumi Uetani



2023年度は、高齢や病気が理由で譲渡につながりにくかったワンコを温かい家庭へ迎えてもらう制度「終生預かりボランティア（ケアボラ）」を開始しました。

たくさんのお申し出をいただき、今では多くのシニアワンコがおうちで幸せに暮らしています。1頭でも多くのワンコを新しい家族へつなげられるよう、スタッフ一同、これからも尽力していきます。

「私の仕事はこれだ！」 保護犬たちと過ごして 気づいたこと



トレーニングアドバイザー

西香 | Kaori Nishi |

埼玉県の警察犬訓練学校を卒業後、ピースワンコ・ジャパンへ。「保護犬のお世話／譲渡スタッフ」「災害救助犬ハンドラー」「被災者支援」「新しい譲渡センターの開設」など幅広い業務を担当し、現場のオールラウンダーとして活躍する。

西さんがこれまでに担当した仕事について教えてください。

新卒で入職して早々、「保護犬のお世話／譲渡スタッフ」と「災害救助犬チーム」、二つの仕事を担当しました。1年半後には、災害救助犬・夢之丞（ゆめのすけ）のハンドラーという大役を任せていただき、北海道、佐賀、福岡の土砂災害、西日本豪雨、地震直後のインドネシアのロンボク島など、3年にわたり国内外の被災地に出勤しました。現在は、2023年11月にオープンしたばかりの浜松譲渡センターで働いています。



なぜ就職先にピースワンコ・ジャパンを選んだのですか？

実家に犬と猫がいて、動物は子どもの頃から好きでした。高校卒業後は埼玉県の警察犬訓練学校に進学し、作業犬のトレーニングについて学びました。就職活動の際、ピースワンコ・ジャパンでインターンをする機会があり、初めて保護犬と関わりました。学校で訓練してきた犬とは異なり、保護犬は人に馴れるところからのスタート。その違いや難しさに興味を持ち、保護犬に携わる仕事をしてみようかなと思いました。

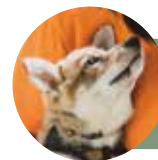
「災害救助犬ハンドラー」というのは、具体的にどんなことをするのですか？



災害救助犬と固い絆を結び、倒壊した家などの下敷きになっている生存者を捜索します。生存率が著しく下がってしまう「72時間の壁」（発災直後の3日間）までが勝負。被災地では、足場が崩れる危険性や余震を常に警戒しながら、慎重に行動する必要があります。難しいのは、犬も被災地の雰囲気や状況を敏感に感じ取るので、反応がいつもと違ったり、迷いがみられたりすること。犬の様子を見た上での状況判断がしづらくなり、練習通りにはいかない、現場ごとの難しさと大きなやりがいを感じました。

夢之丞とペアを組んでみていかがでしたか？

最初は、夢之丞のハンドラーが自分に務まるのかなと不安もありました。初めての出勤は、緊張の連続。ヘリコプターでの現地入り、被災まもない現場、救助活動と、周りについていくのがやっとでした。でも、夢之丞は被災地での経験が豊富にあり、私にとっては大先輩。夢之丞にリードしてもらいながら、徐々に現場に慣れていくことができました。



浜松譲渡センターでの仕事は いかがですか？

浜松譲渡センターは、ピースワンコ最大規模。広い室内ドッグランもある、素晴らしい環境です。今後は、里親さん探しの対応や、卒業後のアフターケアの向上はもちろん、ワンコたちのトレーニングも充実させていきたいです。

浜松譲渡センターは、能登半島地震の 被災者支援拠点にもなったんですね。

はい。私自身も発災直後から三度、珠洲市に入りました。避難所などを回って被災者のお話を伺い、ニーズ調査やそれに合ったサポートをするのが主な活動。現地の方との会話では、心の負担になる話題や言葉遣いになっていないか、常に考えていましたね。今回は、飼い主さんの状況が落ち着くまでワンコを浜松譲渡センターで預かる「緊急一時預かり支援」も行っています。保護犬でないおうちの子を預かる責任は、また特別なものがありますね。

仕事の中で一番嬉しい瞬間はいつですか？

里親さんが写真や動画を送ってくださって、卒業したワンコたちの幸せそうな姿が見られた時です。「このご家族に迎えてもらえて本当に良かった！」と感じますね。実は1年半ほどピースワンコを離れて別の仕事をした時期もありましたが、どうしても犬と触れ合いたくてたまらなくなり、復職しました。犬と共に過ごすことは、もはや人生の一部。やっぱり「私の仕事はこれだ！」と確信しています。



News



悲願ついに！新・広島県動物愛護センターに 殺処分機、設置されず

2023年8月、広島県動物愛護センターが場所を移してリニューアルオープン。旧愛護センターにはあった殺処分機（ドリームボックス）が、新しい施設には設置されませんでした。それはすなわち、私たちピースワンコ・ジャパンが毎月、愛護センターから殺処分寸前の犬たちを引き出してきた大きな成果とも言えます。

ピースワンコ・ジャパンの活動の原点は2010年。当時の愛護センターで、殺処分を目前に控えて怯える子犬を目の当たりにし、二酸化炭素で窒息死させられるような殺処分機を「もう稼働させないよう力を尽くす」と代表の大西が心に誓ったことが活動のきっかけでした。

広島県は2011年、犬猫殺処分数で全国ワースト（犬は2,342頭）を記録していましたが、2016年にピースワンコ・ジャパンが全頭引き出しを行って「犬の殺処分ゼロ」を実現。以来約8年間、殺処分機を一度も稼働させていません。新しい愛護センターに殺処分機が設置されなかったことは、動物を「処分」という概念がなくなり、「保護・譲渡」という文化が広島に根付いた証拠だと実感しています。



ここまで長い道のりでしたが、私たちにとって長年の悲願が叶った気持ちです。支援者の皆様に心より感謝申し上げます。8年使っていない広島の殺処分機は、ほこりを被っています。広島だけでなく全国の殺処分機がこうなるように、これからも一頭でも多くの命を助け、幸せにしていきたいと思います。

プロジェクトリーダー 安倍 誠

Messages

ピースワンコへの
応援メッセージ



pecoさん

世界にたった1匹の子なんだと思うと、
すごく愛おしいです。

モデル、TVタレント、ファッションブランド「Tostalgic Clothing (トスタリック・クロージング)」のデザイナー・プロデューサーとして活躍するpecoさん。ピースワンコ からアリソンを家族に迎えてくれました。

「アリソンは、私が何をしても許して、受け入れてくれる存在。賢くて、めっちゃめちゃ可愛くて、私のことをいつも気にかけてくれていて。本当に、この子に守られている気がするんです」と話してくれました。

ピースワンコの保護犬の多くを占めるのは、雑種の元野犬の子たちです。「元野犬の子には、大変なところもあるかもしれませんが、その子自身の個性と受け止めると、見え方が変わってきます。世界にたった1匹の子なんだと思うと、すごく愛おしいです」。愛情をもって向き合えば、犬は答えてくれる。アリソンとpecoさん、ご家族の「与え、受け取る愛の物語」が私たちを励ましてくれます。



株式会社
ニューエスト

代表取締役
新西 貴代美様

現場で活動する災害救助犬の勇敢な姿には非常に感動しました。命を救われた犬が、スタッフに信頼を寄せ、強い絆で結びつき人命救助任務を果たす！人の命・犬の命と大切な2つの命を救える「災害救助犬プロジェクト」を（株）ニューエストは力の限り応援し続けます！



株式会社
アウレオ

代表取締役
守屋 祐生子様

自分で保護活動をしたい気持ちはありますが、現実にはなかなか難しいため、どんな形でもいいのでサポートできればと思い、支援させていただいています。「殺処分寸前のワンコの命を救う」、これにつきます！一頭でも多くの命が救えるよう、これからも応援しています。



株式会社
THE DOG
COMPANY

代表取締役
鈴見 純孝様

コラボした「SAVE THE DOGカレンダー」では、保護犬たちの優しい表情のベースに、スタッフの方々の日頃の接し方があると強く思いました。また、能登半島でのトリミングワゴンによる支援でお役に立てたことも非常に光栄でした。今後ともタッグを組み一つでも多くの命を救えればと思います。



HOWTO
SUPPORT

ワンだふるサポーター

になってピースワンコ事業を支えてください。

月々1,000円～

ピースワンコ事業を継続的にご支援いただくプログラムです。保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育や災害救助犬の育成費用などに使わせていただきます。

ピースワンコ 寄付 検索

<https://peace-wanko.jp/support>



国内事業

| SOCIAL INNOVATION |

馬事業担当

中澤 巧

| Kou Nakazawa |

2017年入職。父が競走馬に関わる仕事をしてことから身近に馬のいる環境で育つ。大学卒業後、競走馬の育成牧場に就職。約9年間、育成・管理・調教に携わる。競馬界の不況もあり機械メーカーに転職するが、岩手県で行われるチャグチャグ馬コや流鏑馬奉納などを手伝ううち、「また馬に関わる仕事がしたい」とピースウィングズの馬事業に応募。現在は、引退競走馬のセカンドキャリア構築、福島県相双地域での馬事文化継承、馬との交流を通じたコミュニティ再生支援を行なっている。

馬と一緒に働く仲間。
馬と一緒に年を取り、
できなくなったことが増えていく中でも、
並んで歩んでいく。
それが「馬との共生」なのかなと思う。

馬の保護

2018年～現在



福島県南相馬市を拠点に活動するNPO法人相馬救援隊などと連携し、引退した競走馬を保護・飼育しています。保護された馬たちは、乗馬や引き馬体験などができるように再トレーニングされ、住民の交流にも役立っています。地域の伝統行事である相馬野馬追にも参加しました。

「馬たちに、より多くの可能性を見出したい」 —— 馬事業のこれから

2024年6月には活動拠点を南相馬市馬事公苑から浪江町に移します。

日々の馬のリトレーニングをはじめ引退競走馬のセカンドキャリア構築に関わることは引き続き進めていきたいですが、乗るだけでなく馬が物を引く仕事である馬車、馬搬、馬耕等も行っていきたいと考えています。馬たちにより多くの可能性（仕事の幅）を見出していきたいです。

また新拠点は、トレーナーの育成など馬に関わる人を増やすような、人材育成機能を持った施設にしていきたいです。馬に関わる人が増え、しっかりとした知識と経験のあるトレーナーが増えることで、能力を発揮できる馬たちが増え、助かる馬の命も増えると考えています。

新拠点では「馬との共生」を大きな目標として掲げています。「馬との共生」というと人それぞれ思い描くイメージや本質があるかと思います。自分の理想は、馬をパートナーとして共に仕事をしていくこと。そして歳を重ね、リタイアした馬が余生を過ごし、また新たなパートナーとして馬を受け入れる、そんな場所をイメージしています。馬も人も幸せに過ごせて、訪れる人びとにも心地よい場所として提供できるよう作り上げていけたらと思っています。



地域創生（島根県海士町）

2023年～現在



日本海に浮かぶ隠岐諸島の島根県海士町と包括連携協定を結び、災害時の支援拠点づくりに向けた準備を進めました。2024年1月の能登半島地震の際は、被災地へ向かう船が寄港し、海士町で調達した支援物資を石川県珠洲市に届けました。離島の地域づくりのための活動も進めています。

Study in America

2023年～現在



児童養護施設で暮らす子ども達を対象に、海外文化に触れる留学の機会を提供するプロジェクトを開始しました。今まで海外へ行く機会が少なかった子どもたちに海外留学という経験を届け、広い視野と新しい視点を持った人材を育成します。3月末には児童養護施設で生活してきた6人の若者が、アメリカ・フロリダ州に短期留学しました。

佐賀県

佐賀伝統工芸振興

2015年～現在



ふるさと納税や商品開発など様々なプロジェクトを通じて、佐賀の伝統工芸事業者をサポートしています。認知拡大のため、2023年は写真撮影や動画撮影にも注力しました。



写真集を作成して、過去の寄付者様に送付しました。工芸品だけではなく、つくり手のファンづくりに貢献して「つくり手とつかい手をつなぐ」を目指します。



HOW TO SUPPORT

「ふるさと納税」ご利用いただけます。

ピースワンコ・ジャパン事業や佐賀伝統工芸事業、災害緊急支援事業などピースウィンズのいくつかの事業はふるさと納税でのご支援も可能です。ご寄付が一定額までなら、2,000円を除いた金額が所得税・住民税から差し引かれます。詳しくはポータルサイト「ふるさとチョイス」をご覧ください。

ピースウィンズ ふるさと納税

検索

広島県神石高原町

地域創生(神石高原町)

2015年～現在



広島県神石高原町の町立病院、へき地診療所で、医師・看護師・調整員による診療支援を続けるとともに、今後の地域医療を支える仕組みづくりに向けて町や関係者との協議を進めました。神石高原ティアガルテンの運営協力や、神石高原地域創造チャレンジ基金のサポートも続けました。

愛媛県豊島

地域創生(瀬戸内・豊島)

2014年～現在



瀬戸内海の豊島では、現代アート事業のオフィスを整備し、ライブラリーに収蔵する書籍やカタログなどのアーカイブ化に向けた作業を進めました。海外の著名なアーティストらを招いて制作のためのリサーチと交流の場を提供。例年通り、ゲルハルト・リヒター作品の一般公開も期間を限定して行いました。

広島県神石高原町

海外農業研修生受け入れ

2023年～現在



ネパールから農業研修生を招き、ピースウィンズの本部がある広島県神石高原町で野菜づくりや加工・販売などを学ぶ機会を提供しました。ネパールの農村にも現地提携団体の専門家を派遣し、先進的な農業技術を普及させる取り組みに力を入れました。

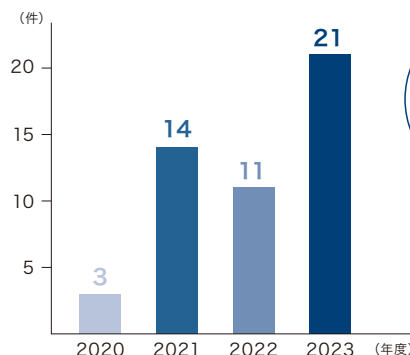
遺贈寄付

| LEGACY GIFT |

想いを未来につなぐ遺贈寄付でもご支援をいただいております。

遺贈寄付とは

遺贈寄付とは、遺産の一部（または全部）を公益活動などに寄付することです。近年、ピースウィンズでも遺贈寄付をいただくことが増え、故人のお気持ちのこもったご寄付は、支援の現場で大切にに使わせていただいています。



ご寄付件数の
グラフ

遺贈寄付ご相談係

私たちがご相談を承ります



どんなことでも
遠慮なくご相談
ください。

遺贈寄付
特設ページ



寄付者の方からいただいた声

Message



パレスチナの状況をみて何かしたい
と、亡くなられたお母様のご遺産から
「少額ですが」とご寄付をいただきま
した。「能登半島地震への迅速な対応
にも勇気づけられました。どうぞ安
全にご活躍ください」(A様)

Message



「両親も私も人生は苦勞の連続でした
が、動物たちに心癒やされ、和ま
され、励まされて頑張ることができま
した」「父と私は何度か少額ですが寄付
させていただきましたので、父も一
番喜ぶことと思います」(B様)

関心にこたえる情報提供

相続・遺贈寄付セミナーの開催、イベントへの登壇、メールレターの発行などを通して、お役に立つ情報をお届けしています。また、NHK「クローズアップ現代」でもピースウィンズへの遺贈寄付の事例や取り組みが紹介されました。



NHKの取材風景



メールレター

ご相談に応える体制づくり

弁護士・税理士などの専門家の力も借り、急増しているご相談に応える体制を整備しています。提携先金融機関等は右記のとおりです。



企業連携

| CORPORATE COLLABORATION |

ピースウィンズはこれまで、幅広い業種・規模の企業・団体と連携して、国内外の社会課題の解決に取り組んできました。

経験豊富な専門部署のスタッフが「社会貢献をしたい」という企業のニーズと、社会課題の現場におけるニーズをマッチングし、支援の現場に届けています。

法人寄付件数 累計 **3758社/15987件**



寄付



共同
プロジェクト



企業版
ふるさと納税



物資寄贈

企業連携
特設ページ



企業連携事例 1

従業員の想いを倍にして届ける 「マッチング寄付」

日本たばこ産業株式会社



3ヶ年更新の協定をつうじて、空飛ぶ捜索医療団の平時からの訓練や体制強化、外部機関との連携を長年にわたり支えていただいています。また、緊急支援の都度、速やかに社内募金窓口を立ち上げ、集まった寄付金に会社が同額を上乗せする「マッチング寄付」を実施、従業員の皆さまの想いを倍にして届けてくださっています。

企業連携事例 2

現金寄付と物資寄贈の両輪で、 規模感のある被災地支援を実現

株式会社ファーストリテイリング 株式会社ユニクロ



令和6年能登半島地震の直後から支援準備を開始し、医療支援など緊急支援活動への寄付金（株式会社ファーストリテイリング）の拠出に加えて、避難生活に欠かせない下着（株式会社ユニクロ）を大規模に届けていただきました。空飛ぶ捜索医療団が石川県珠洲市での配付を担い、避難所のみならず、在宅避難の方々にも広くお配りすることができました。

企業連携事例 3

迅速な物資支援のため、 東西のセンターに災害支援拠点を設置

アマゾンジャパン合同会社



同社の強みである取扱い商品の幅の広さやロジスティクス力を活かした災害支援を目指し、神奈川県相模原市・兵庫県尼崎市の「フルフィルメントセンター（FC）」に災害支援拠点 "Disaster Relief Hub" を開設。空飛ぶ捜索医療団と選定した、災害直後から必要となる支援物資を備蓄し、共同輸送訓練も行いました。令和6年能登半島地震を受け、発災4日後には最初の支援物資が石川県珠洲市に届けられました。

企業連携事例 4

国内外の紛争・災害支援に 幅広い方法で協力

株式会社ゼンショーホールディングス 株式会社すき家



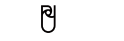
2023年度は、モロッコ地震支援への店頭募金や、パレスチナ・ガザ地区子ども支援への社内募金により、ピースウィンズの国際人道支援にご寄付をいただきました。令和6年能登半島地震の後には、空飛ぶ捜索医療団からの情報提供を受け、石川県珠洲市での「すき家」のキッチンカーによる炊き出しを決定。断水が続き、冬の寒さの中にあった避難所にあたたかい牛丼が数ヶ月にわたって届けられました。

企業や団体からのご支援

| PARTNERS |

ピースウィンズは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、積極的に連携しています。
2023年度には、800を超える法人からご支援をいただきました。

2023年度 支援企業・団体

 株式会社 チェンジホールディングス	 日本たばこ産業株式会社	 株式会社 ファーストリテイリング	 株式会社ユニクロ	 パナソニック ホールディングス 株式会社	 アマゾンジャパン合同会社	 株式会社 ゼンショーホールディングス	 株式会社すき家	 ディップ株式会社	 テーブルマーク株式会社
 大東建託グループみらい基金	 株式会社シンリョウ	 デロイト トーマツ ウェルビーイング財団・ デロイト トーマツ グループ	 デッカーズジャパン合同会社	 J.S.Foundation	 サントリーホールディングス 株式会社	 株式会社ブロンズ新社	 東武タワースカイツリー 株式会社	 株式会社大林組	 株式会社堀川洋行
 ソフトバンク株式会社	 シャディ株式会社	 全国友の会	 アサヒグループジャパン 株式会社	 ブックオフコーポレーション 株式会社 「キモチと。」	 FJホールディングス株式会社	 一般財団法人ピーくん財団	 株式会社TAKANO ESTATE	 株式会社TK	 三菱電機関連労働組合連合会
 MFSインベストメント・ マネジメント株式会社	 株式会社 フレックスインターナショナル	 オイシックス・ラ・大地 株式会社	 GICジャパン株式会社	 アーキシステムワークス 株式会社	 エールスペック株式会社	 フォーエバーリビングプロダクツ ジャパン	 一般財団法人村上財団	 株式会社 DEVELOPMENT CLOUD	 株式会社TENTIAL
 株式会社グランド・ワン	 株式会社フューチャーランド	 丸中製菓株式会社	 税理士法人レガシィ	 ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社 ヴィーナ・エナジー・ジャパン 株式会社	 富士フィルム ビジネスソリューション 端数倶楽部	 株式会社 ユナイテッドアローズ	 株式会社ユグレナ	 株式会社キッツ・ 株式会社清水合金製作所	 株式会社ダイワテック
 アンカー・ジャパン株式会社	 株式会社ARIGATOBANK	 LINEヤフー株式会社	 READYFOR株式会社	 株式会社ワンモア (GREEN FUNDING)					

一般財団法人ホシザキ新星財団／一般社団法人シェア基金／株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ／医療法人社団杏樹会よこやま耳鼻咽喉科／株式会社祐真／敦賀断熱工業株式会社／プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社／
株式会社デファクトスタンダード(オークネットグループ)／株式会社ディーエムエス／Euromonitor International／株式会社ロワール／英国日本婦人会／ネイルパートナー株式会社／株式会社ジェネシア・ベンチャーズ／ワールドチルドレン芸術祭／株式会社ワットマン／
一般社団法人パシッパハウス・ジャパン／nina神石高原／Dear・Children株式会社／社会福祉法人クビド・フェア／高橋尚子杯びっふ清流ハーフマラソン実行委員会／全国労働金庫労働組合連合会／株式会社ドリームゲート／DoersTokyo株式会社／YOSKARN CLINIC／
安本産業株式会社／医療法人水野クリニック／株式会社リコー／株式会社アークビルド／株式会社ニューエスト／株式会社今興興産／買取専門店「ザ・ゴールド」／JRひがし労／株式会社ブレイリードッグ／カトリック碑文谷教会／株式会社ヒロコービー／チャリティショップKANAU／
株式会社どりーむ／株式会社JPEパートナーズ／三井化学ちびっとワンコイン・三井化学株式会社／東栄産業株式会社／東京ニューイヤーハーフマラソン実行委員会／株式会社バリューHR／すけだちBOOKS／チャリティー大集合／旭商船株式会社／一般社団法人日本グリーンフ専門士協会／
学校法人朝日学園／株式会社神奈川フェンス土木／株式会社KAIQH／株式会社SOOL／株式会社ファンケル／株式会社ホットスタッフ・プロモーション／ホワイトテック会計事務所／株式会社出版文化社／株式会社第一工業／住友機材株式会社／福澤機械株式会社

その他、多くの法人様よりご支援をいただきました。

2023年度 助成団体・パートナー団体

			
			
			
			
			クラレ財団
			

外務省・日本NGO連携無償資金協力／国際協力機構／Republic of Palau／
 米国国務省 Bureau of Population, Refugees, and Migration／USAID Bureau for Humanitarian Assistance／
 The Iraq Humanitarian Fund／UN-Habitat／UNHCR／UNICEF／
 United Nations Population Fund／UN Women／World Food Programme／Barefoot to Boots／
 フェリシモ基金／Give2Asia／ひろしま国際センター／日本国際協力財団／ジャパン・プラットフォーム／
 ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ／クラレ財団／SATO, part of LIXIL／トヨタ財団

メディア掲載事例

ピースウィンズは、支援の現場を広く伝えることを大切にしています。YouTubeなどSNSで積極的に発信を行ったほか、多くのメディアにも取り上げられました。



テレビ

2023年 2月 9日	Abema TV	トルコ地震で考える「支援のあり方」と「批判への向き合い」
2月26日	RCCテレビ	トルコ・シリア地震 支援のNGOが帰国会見
3月25日	フジテレビ	THE批評対談 ～トルコ・シリア地震 今求められる支援～
3月 7日	あいテレビ	民間運行は国内初 災害医療支援船「Power of Change」就役
8月20日	NHK	現地で支援活動の日本のNGO「コミュニティ復興支援必要」
11月15日	静岡放送	犬の保護・譲渡施設が浜松市にオープン
2024年 1月 8日	テレビ朝日	被災地で多くの命救う空飛ぶ捜索医療団
1月 8日	フジテレビ	地震から124時間94歳女性を救出 能登半島地震
1月 9日	CNN	AT LEAST 168 CONFIRMED DEAD, MORE THAN 300 MISSING
1月14日	NHK	能登半島地震 いま何が必要か

新聞／Webメディア

2023年 2月17日	読売新聞	厳寒のトルコ、つらい避難生活…現地の日本人医師「ニーズは日々変わっている」
2月21日	日経電子版	トルコ・シリア地震、避難長期化懸念 日本の知見活用を
2月26日	朝日新聞デジタル	ウクライナ難民834人カルテ分析 NPO「高血圧の割合高く」
9月13日	朝日新聞	モロッコ救援、日本からも NPO現地入り・義援金募る
9月19日	毎日新聞	ブルキナファソは20年前の日本と同じ 国境なき肝炎支援を
10月12日	Yahoo!ニュース	アフガニスタン相次ぐ大地震 死者2千人超 現地緊急インタビュー
2024年 1月 7日	朝日新聞デジタル	「非常に珍しい」地震5日後の救出 生き延びた要因を医師が振り返る
1月10日	Yahoo!ニュース	珠洲市に医療支援に入ったNPO医師に聞く被災地支援に必要なこと

ラジオ

2023年 2月 8日	TBSラジオ	「トルコ・シリア大地震から2日」現地入りした救援隊の一員に、状況を聞く。
2月13日	NHKラジオ	トルコの大地震から1週間
10月10日	J-WAVE	NEWS TO THE TABLE パレスチナ

テレビ60、新聞／Webメディア407、ラジオ17、その他4、総計488

会計まとめ

FINANCIAL REPORT

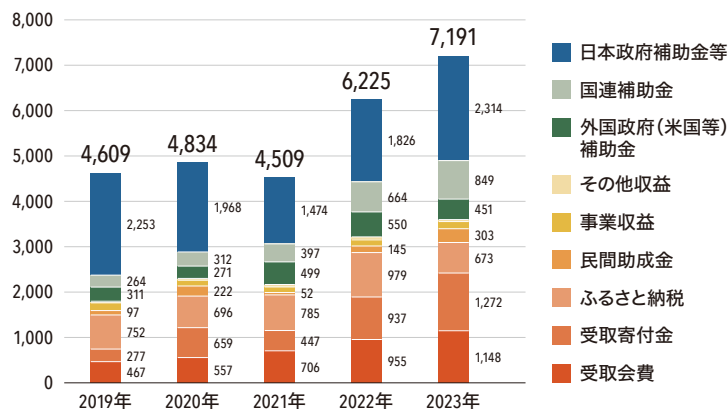
2023年度の経常収益は、前年度から15%増加して71億9,151万円となりました。収益が増えた主な理由の一つ目は、受取寄付金の増加です。年度内に発生したトルコ地震、ミャンマーサイクロン、ハワイ大火災、モロッコ地震、アフガニスタン地震、中国甘粛省地震、能登半島地震など、日本も含めて世界各地で発生した災害に対してご寄付が集まったことや、遺贈による寄付などが増えたことで、寄付収入が前年より35%増えました。二つ目は、補助金や助成金収入の増加です。ウクライナ・モルドバ事業の12.5億円（前年の171%）やケニア事業の8.6億円（前年の209%）のように既存事業での支援拡大により、助成金等の収入が39億円を超え前年より23%増えました。三つ目は、サポーター数が2024年1月時点で7.1万人（前年同月より1.3万人増加）となり、会費収入が前年より20%増加したことです。

一方、経常支出も前年度から23%増加して71億7,038万円となりました。支援活動の拡大や、緊急支援に向けたロジスティックスの強化とフィールドホスピタルの準備、地域医療を支えるための拠点整備への支出が増えました。助成金・補助金や会費、寄付金、及びふるさと納税によるご寄付の一部は、次年度以降の事業のために繰り越されています。

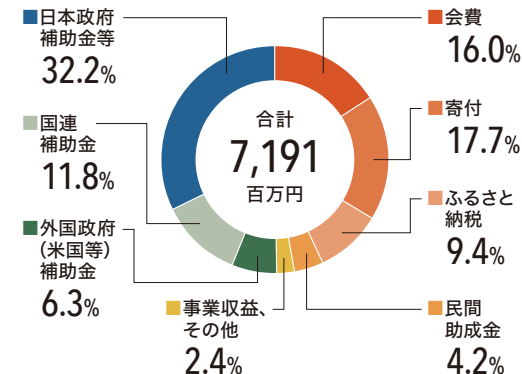
経常収入の推移及び内訳

2023年度の助成金収入の割合は54.5%（前年度より+3.3）に対して、寄付・会費・ふるさと納税による収入が合わせて43.1%（前年度より-3.0）となりました。

5年間の収入推移(単位:百万円)



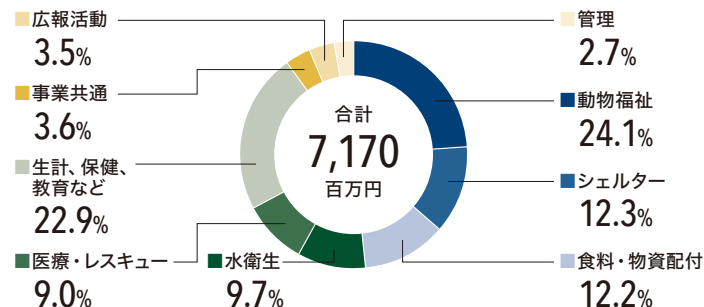
収入内訳



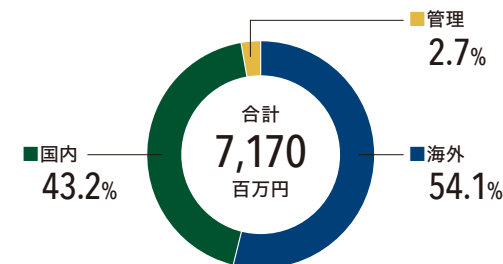
経常支出の内訳

2023年度の経常支出をセクター別に分けると、1位は、国内の保護犬事業24.1%（前年より-3.5）。2位は、海外の難民キャンプや帰還民へのシェルター支援12.3%（前年より-4.9）。3位は、災害支援で拡大した食料・物資配付支援の12.2%（前年より+0.9）となりました。海外事業と国内事業の比率は、海外事業が54.1%（前年より-1.5）に対して、国内事業は43.2%（前年より+1.7）です。

セクター別支出額



海外・国内別支出額



2023年度会計報告

第25期事業年度 活動計算書 2023年(令和5年)2月1日～2024年(令和6年)1月31日

科目		金額(円)	
I 経常収益			
1. 受取会費	正会員受取会費	1,800,000	
	賛助会員受取会費	720,000	
	ピースサポーター	42,347,741	
	ワンだふるサポーター	1,027,351,386	
	ワンだふるファミリー	65,681,000	
	ARROWSサポーター	6,611,400	
	ARROWSメディカルサポーター	1,052,000	
2. 受取寄付金	その他受取会費	2,646,900	1,148,210,427
	受取一般寄付金	79,215,700	
	受取特定目的寄付金	1,053,692,054	
3. 受取助成金等	物品・現物等寄付収入	139,188,163	1,272,095,917
	ふるさと納税交付金	673,373,994	
	受取民間助成金	2,227,288,675	
4. 事業収益	受取補助金	390,501,446	
	国連等補助金	1,299,502,122	4,590,666,237
	フェアトレード事業収益等その他売上	102,632,469	
	業務委託	23,699,840	
5. その他収益	その他事業収益	31,719,379	158,051,688
	受取利息	3,329,547	
	雑収益	18,797,286	22,126,833
経常収益計			7,191,151,102
II 経常費用			
1. 事業費	(1)人件費		
	給料	872,393,649	
	賃金	44,141,827	
	法定福利費	122,071,120	
	福利厚生費	4,216,868	
	退職給付費用	5,617,036	
	海外現地スタッフ人件費	438,256,993	
	人件費計	1,486,697,493	
	(2)その他経費		
	直接事業費	2,862,365,634	
	仕入高	56,868,895	
	地代家賃	192,681,574	
	事務所維持費	101,724,248	
	水道光熱費	53,886,146	
	リース料	191,156,782	
	車両レンタル	60,542,804	
	通信費	26,353,681	
	旅費交通費(海外)	112,159,067	
	旅費交通費(国内)	95,687,681	
	広報啓発活動費	616,093,880	
	外注費	457,465,734	
	手数料	105,174,725	
	ふるさと納税お礼関連費用	20,334,984	
	寄付金	67,762,000	
	減価償却費	95,287,919	
	その他の費目	374,907,480	
	その他経費計	5,490,453,234	
	事業費計		6,977,150,727

科目		金額(円)	
2. 管理費	(1)人件費		
	役員報酬	100,000	
	給料	69,893,840	
	賃金	860,888	
	法定福利費	26,620,460	
	福利厚生費	1,403,838	
	退職給付費用	8,318,801	
	人件費計	107,197,827	
	(2)その他経費		
	地代家賃	17,973,452	
	事務所維持費	800,466	
	水道光熱費	4,314,410	
	リース料	1,391,316	
	通信費	2,560,653	
	旅費交通費(国内)	3,133,932	
	外注費	12,148,100	
	手数料	3,218,177	
	減価償却費	2,937,043	
	その他の費目	37,560,757	
	その他経費計	86,038,306	
	管理費計		193,236,133
	経常費用計		7,170,386,860
	当期経常増減額		20,764,242
	III 経常外収益		
	固定資産売却益		381,289
	有価証券評価益		287,200
	為替差益		34,454,456
	経常外収益計		35,122,945
IV 経常外費用			
	固定資産除却損		3,736,161
	助成金返還額		6,999,490
	支払利息		54,993,334
	有価証券評価損		204,400
	その他経常外費用		46,500
	経常外費用計		65,979,885
	税引前当期正味財産増減額		▲10,092,698
	法人税、住民税及び事業税		979,000
	当期正味財産増減額		▲11,071,698
	前期繰越正味財産額		700,636,278
	次期繰越正味財産額		689,564,580

第25期事業年度 貸借対照表 2024年(令和6年)1月31日時点

科目		金額(円)	
資産			
I 資産の部			
1. 流動資産	現金預金	1,283,758,885	
	海外現金預金	345,184,348	
	売掛金	11,527,777	
	商品	32,975,530	
	貯蔵品	38,600,945	
	未収入金	211,977,746	
	未収収益	9,331,973	
	立替金	3,304,261	
	前払金	8,327,276	
	前払費用	18,162,025	
	仮払金	339,591,837	
	未収補助金等	67,698,182	
	預け金	13,505,908	
	未収消費税	3,711,900	
	流動資産合計		2,387,658,593
2. 固定資産	建物	289,386,312	
	建物付属設備	112,426,449	
	構築物	102,038,359	
	車両運搬具	4,555,399	
	工具器具備品	51,518,453	
	機械装置	1,118,114	
	船舶	42,358,930	
	生物	658,405	
	土地	30,414,038	
	美術品	582,205,271	
	図書	18,015,068	
	リース資産	44,490,560	
	建設仮勘定	5,500,000	
	有形固定資産計	1,284,685,358	
	電話加入権	385,392	
	商標権	223,347	
	水道施設利用権	183,018	
	借地権	1,857,600	
	ソフトウェア	2,886,665	
	無形固定資産計	5,536,022	
	子会社株式	5,594,700	
	投資有価証券	48,126,000	
	長期貸付金	85,165,586	
	長期前払費用	944,000	
	敷金及び保証金	26,476,342	
	保険積立金	4,682,700	
	投資その他の資産計	170,989,328	
	固定資産合計		1,461,210,708
	資産の部合計		3,848,869,301

科目		金額 (円)	
負債及び正味財産			
II 負債の部			
1. 流動負債	仮受金	1,774,718	
	未払金	503,223,373	
	未払費用	1,513,117	
	預り金	12,150,772	
	前受金	57,333	
	短期借入金	160,000,000	
	1年内返済予定長期借入金	110,628,694	
	前受助成金等	949,206,081	
	未払法人税等	929,000	
流動負債合計			1,739,483,088
2. 固定負債	退職給付引当金	62,334,833	
	リース債務	47,529,390	
	長期借入金	1,309,867,000	
	長期前受収益	90,410	
	固定負債合計		1,419,821,633
負債の部合計			3,159,304,721
III 正味財産の部			
	前期繰越正味財産額	700,636,278	
	当期正味財産増減額	▲11,071,698	
	正味財産		689,564,580
正味財産の部合計			689,564,580
負債の部及び正味財産の部合計			3,848,869,301

ピースウィンズは、
青木幹雄公認会計士事務所による
外部監査を受けております。

財務諸表及び外部監査報告書の全体は
掲載のURLまたはQRコードより
ウェブサイトにてご確認ください。

<https://peace-winds.org/about/report>



2023年度の支援事業一覧

	目的	事業分類	支援内容	実施場所	受益者数
イラク	シリア難民支援	生計支援、シェルター、インフラ	キャンプ内の住居改善や公共施設アクセス改善、改善工事を通した雇用機会提供	ドホーク州、アルビル州	25,662人
	帰還民支援	生計支援	職業訓練	ニネワ州	1,704人
シリア	人道危機対応支援	衛生	新型コロナウイルスおよびコレラ感染拡大防止支援を目的とした衛生キット配付、感染予防啓発	シリア国内	24,500人
		心理社会的支援	脆弱層のコミュニティを対象とした心理社会的支援		3,054人
		食料	脆弱層のコミュニティを対象とした食料支援		5,475人
			妊婦および乳児を持つ母親と障害者への食料支援		食料配付中のため未確定
		心理社会的支援	心理的苦痛を抱える子どもや女性等に対する心理社会的支援		実施中のため未確定
アフガニスタン	地震被災者支援	食料、心理社会的支援	地震直後の緊急食料配付、心理的応急処置の提供、子どもの心理的サポートの提供		25,950人
	人道危機対応支援	食料	遠隔地の脆弱な世帯への食料用現金給付	ナンガルハル県パチェラガム郡	13,979人
		食料、物資配付	食料および生活物資配付、越冬用の現金給付	バクティカ県ギヤン郡	784人
	地震被災者支援	食料、水・衛生、保健医療、シェルター、物資配付	現金給付、越冬のための物資配付	ヘラート県ジンダジャン郡、クシュク郡	6,874人
	教育支援	教育	女子校の教育環境改善	ナンガルハル県パチェラガム郡	1,480人
パレスチナ	人道危機対応支援	社会心理支援	ガザ地区における幼稚園児への心理社会的支援	デール・エル・バラハ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県	868人
		Cash for Work、食料	ガザ地区における紛争被害世帯の食料支援のためのキャッシュ・フォー・ワーク(CfW)事業および食料購入のための現金給付	北ガザ県、ガザ県	3,093人
	教育支援および電力改善	教育	ガザ地区における教育施設への脱炭素技術導入による電力状況の改善および教育機会へのアクセス改善事業	北ガザ県、デール・エル・バラハ県	事業中断により未確定
	ガザ緊急対応	食料、NFI	ガザ地区における紛争被災者への食料、NFI(Non-Food Item)配付および水供給支援	ガザ中部および南部	7,070人
		食料	北部ジャバリヤ、ガザ市、中部ブレイジ、デール・エル・バラハにおける食料配付とホットミールの提供とエジプトからの食料搬入および配付	ガザ北部および中部	21,154人
南スーダン	国内避難民・帰還民支援(ホストコミュニティ含む)	水・衛生	洪水対策型含む給水衛生施設の建設・改修および維持管理におけるコミュニティのレジリエンス強化、衛生知識の定着と普及	中央エクアトリア州、アッパーナイル州	31,206人
		食料	アッパーナイル州の治安悪化により避難してきた人びとに対する給水衛生施設の建設・改修および衛生知識の定着と普及	アッパーナイル州	11,880人
			小学校生徒に対する持ち帰り用の食料配付		4,284人
		スーダン共和国で発生した武力衝突により南スーダンへ避難した帰還民への食料配付			6,515人
	スーダン難民支援	漁業、生計支援	国内避難民に対する漁業技術支援を通じた食料確保および生計向上支援		630人
ケニア	難民支援(ホストコミュニティ含む)	水・衛生	難民居住地区における給水衛生支援	中央エクアトリア州	5,100人
		水・衛生、シェルター、サプライチェーン	難民キャンプ・周辺地域における水衛生環境改善支援、新規難民に対するシェルターの提供、人道支援に関するサプライチェーンサービスの提供	ガリッサ郡	320,853人
			難民居住地区・難民キャンプ・周辺地域における水衛生、シェルター、ロジスティクス支援および統合的な難民支援に向けた現地政府、住民団体への支援、人道支援に関するロジスティクスの提供		445,075人
			難民居住地区・難民キャンプ周辺地域の給配水システムに係る情報収集・確認調査	トゥルカナ郡	300,000人
		衛生	難民居住地区・難民キャンプ・周辺地域における分散型固形廃棄物管理体制の整備		270,000人
	保護・ジェンダー、生計支援	保護・ジェンダー、生計支援	難民キャンプおよびホストコミュニティにおける民間企業と連携した女性の生計向上		477,244人
		食料、栄養	難民キャンプにおける食料安全と栄養の向上のための気候変動対応家庭菜園技術の普及支援		5,000人
		食料	牧畜世帯に対する食料安全向上のための食料パウチャー配付、給水施設整備	ガリッサ郡	16,200人
		衛生、栄養	牧畜世帯における衛生、栄養向上のための住民主導の衛生改善活動の実施支援	トゥルカナ郡、西ボコット郡	190,562人
	地域住民支援	水・衛生	乾燥・半乾燥地域における子供への水衛生環境改善支援		92,800人
		衛生、コミュニティ支援	地域住民に対する性と生殖の健康およびジェンダーに基づく暴力への対応強化	トゥルカナ郡、ガリッサ郡	11,220人
ウガンダ	南スーダンおよびDRC難民・ホストコミュニティ支援	保護・ジェンダー	女性支援センターを活用した特に脆弱な立場にある難民およびホストコミュニティの女性に対する保護支援	アルア県インヴェビ難民居住地区、チェゲグワ県チャカII難民居住地区	18,100人
		ジェンダー、保健、生計支援	COVID-19の影響で脆弱性な立場にある女性、男性、青年の保護、リーダーシップ、エンパワメント強化支援	アジュマニ県、コンベ県、チェゲグワ県女性支援センター3カ所	4,360人
		保護・ジェンダー、生計支援	ジェンダー啓発およびセーフティネット構築、知識と技術向上を通じた女性自立支援、女性支援センター保護機能強化支援	アルア県インヴェビ難民居住地区、チェゲグワ県チャカII難民居住地区	14,300人
	DRC難民・ホストコミュニティ支援	保護・ジェンダー、生計支援	女性のジェンダーに基づく暴力リスク軽減と公的サービスへのアクセスの向上支援	カボンゴ県、イシングロ県 女性支援センター2カ所	2,400人
		給水衛生	新規難民受け入れ地区を対象とした給水衛生支援、難民とホストコミュニティの感染症に対するレジリエンス強化と公衆衛生の向上支援	チェゲグワ県チャカII難民居住地区	10,070人
モザンビーク	北部紛争被災者支援(ホストコミュニティ含む)	給水・衛生、生活物資配付、農業	再定住居住地や受け入れ地域での給水・衛生改善活動、農業をはじめとする生計手段の回復	カーボ・デルガド州シウレ郡	16,630人
	サイクロン被災者支援	給水・衛生	サイクロン被災者への緊急人道支援、コレラ感染症対策チームの設立と研修、衛生キットの配付、衛生啓発活動の実施	イニャンバナネ州コプーロ郡	39,433人

	目的	事業分類	支援内容	実施場所	受益者数	
スリランカ	帰還民再定住支援	農業、コミュニティ開発	農業水利施設の整備による農地の復興と稲作以外の穀物や有機野菜栽培による農業収入の多源化による収入向上支援	トリンコマリー県 ムトゥール郡、クッチャベリ郡、パダビシリプラ郡、キンニヤ郡、ヴェールガル郡、モラウエワ郡、ゴマランカタワラ郡	1,345人	
	農業コミュニティ支援		トリンコマリー県の地元資源を生かした循環型農業の普及による小規模農家の持続可能な生計の確保	トリンコマリー県 ムトゥール郡、クッチャベリ郡、キンニヤ郡、モラウエワ郡、タウン&グラベッツ郡、カンタレー郡	540人	
ミャンマー	緊急人道支援	食料、生活物資	国内避難民およびホストコミュニティへの食料配付、生活物資配付	ミャンマー国内	6,999人	
		食料、生活物資、保健	脆弱層の妊産婦への食料および母親支援キットの配付	ヤンゴン郊外、ネービードー郊外、マグウェ地域	2,110人	
		医療インフラ	ヤンゴン郊外における継続的な医療サービスの確保とCOVID-19蔓延防止のための物資配付	ヤンゴン郊外	10,000人	
		保護	タイへ避難したミャンマーの乳幼児期の子どもと母親（保護者）を含む脆弱層への権利保護、保育や健康知識、タイ語の学習機会などの提供	タイ・カンチャナブリ県	200人	
	サイクロン被災者支援	食料、生活物資	2023年5月に襲来したサイクロン「モカ」被災者への食料、生活物資などの緊急支援物資配付と被害調査	マグウェ地域	6,340人	
ネパール	ネパール大地震被災者支援	水・衛生、農業	水へのアクセス改善と野菜栽培導入による小規模農家の生計向上支援	シンドゥパルチョーク郡	3,660人	
モンゴル	子ども支援	子どもの保護	貧困家庭の子どもの自立支援	ウランバートル市	50人	
東ティモール	地域開発支援	コーヒー生産者自立	コーヒー品質管理体制強化による小規模コーヒー生産者支援および支援地域の拡大	エルメラ県レテフォホ郡・ディリ県ディリ市	3,304人	
ハイチ	生計支援	生計向上	ハイチ南部の村の若者を対象とした縫製就業訓練支援	南県アネケ郡タペーン村	150人	
バングラデシュ	ロヒンギャ難民支援（ホストコミュニティ含む）	保健・医療	難民キャンプ内での診療支援、キャンプ内および周辺地域の保健人材育成、保健衛生啓発活動を通じた脆弱者支援	コックスバザール県ウキア郡・テクナフ郡	55,211人	
パラオ	生活習慣病予防体制の強化支援	医療・保健	病院船による離島を含めた地域での巡回検診、診療による生活習慣病の予防方法促進と持続的に活動を担える人材育成	パラオ全土	18,000人	
	食生活改善支援事業		健康的な食生活の促進を目的としたブースの設置およびSNSによるヘルシーオプションの提案の実施			
アメリカ（ハワイ）	大規模火災緊急支援	食料、生活物資	マウイ火災の被災地域における食料、生活用品、衛生用品などの緊急支援物資配付	ハワイ州マウイ島	60人	
		心理社会支援	マウイ火災の被災コミュニティに対するイベントや研修を通した心理社会的支援		2,620人	
		ペット支援	マウイ火災で被災した動物保護のための物資支援および資金援助		－	
ウクライナ	国内避難民支援（ホストコミュニティ含む）	退避支援、食料、生活物資	戦闘地域からの避難支援、避難所の整備、食料・衛生用品および日用品の配付	ドニプロベトロウシク州、チェルカースィ州、キロヴォフラード州、キーウ、ボルタヴァ、リヴィウ州、ヴィニツァ州、チェルノフツィ州	41,082人	
		医療・教育インフラ・心理社会的支援・法的支援	医療施設への医薬品の提供、巡回診療の実施、幼稚園の修復・整備、学校への音楽・体育器具等の提供、心理社会的支援・法的支援・ソーシャルサポートの提供	リヴィウ州、チェルニーヒウ州、スームイ州、キーウ州、ドニプロベトロウシク州、ボルタヴァ州、ムィコラーイウ州、ヘルソン州、ハルキウ州、ルハーンシク州、ドネツィク州、ザボリージャ州、チェルカッシー州、キロヴォフラード州、ヴィニツァ州、チェルノフツィ州	2,079,876人	
モルドバ	ウクライナ避難民支援（ホストコミュニティ含む）	食料、生活物資	食料・日用品、冬期物資などの物資提供、一時避難所の整備	キシナウ市内外、バルチ市、ニスボレニ県、グロデニ県、クリウレニ県、カフル県	74,072人	
		医療・教育支援	慢性疾患のある障害者への医療支援、学習スペース運営および学齢期避難民への学習支援、避難民受け入れ公立学校の教室等修繕	キシナウ市内外、バルチ市、ニスボレニ県、グロデニ県、クリウレニ県、カフル県	1,471人	
パキスタン	パキスタン水害被災者支援	農業、食料	洪水被害を受けた脆弱な世帯への種子・野菜栽培道具キット配付および野菜栽培促進活動の実施	シンド州ダドゥ郡	9,156人	
ブルキナファソ	地域住民支援	医療支援	ブルキナファソ首都ワガドゥグー市およびボボ・ディウラッソ市におけるB型肝炎検査体制支援	ブルキナファソ、ワガドゥグー、ボボ・ディウラッソ	200人	
トルコ	トルコ南東部地震被災者支援	救助・捜索、医療	地震により倒壊した建物や瓦礫の下敷きになっている人の捜索・救助、被災者に対する医療支援	ハタイ県、ガジアンテップ県、アドウヤマン県、オスマニエ県	120世帯	
		食料、生活物資	地震の影響により孤立した村への食料および量さ対策の生活物資配付	ハタイ県アンタキヤ市	27,835人	
		心理社会的支援	震災の影響を受けた子どもと保護者に対する精神保健・心理社会的支援	ハタイ県イスケンデルン市	1,587人	
		教育インフラ	地震により倒壊した小学校への仮設プレハブ校舎建設		建設中のため未確定	
モロッコ	モロッコ中部地震被災者支援	物資配付	被災村への物資支援	アルハуз州	120人＋76世帯	
		給水・衛生	被災女児への月経衛生管理（Menstrual Hygiene Management：MHM）支援	マラケシュ県、アルハуз州、シジャウア州	2,500	
	モロッコ中部地震被災動物支援	動物支援	被災動物への飼料、シェルター、医療支援	アルハуз州	306頭	
中国	中国甘粛省地震被災者支援	捜索・物資支援	被災家屋の捜索、物資支援	甘粛省	500世帯	
国内事業	伝統工芸振興	伝統工芸振興	地域創生事業	伝統工芸の商品開発、助成、情報発信、販路開拓など	佐賀県	不特定多数
	空飛ぶ捜索医療団（ARROWS）	災害緊急支援	災害支援	医療を軸とした災害緊急支援、災害時を想定した医療救助訓練など	広島県、石川県珠洲市	不特定多数
	能登半島地震被災者支援	能登半島地震被災者支援	災害支援	捜索・救助活動、医療支援、避難所運営支援、物資支援、ペット預かり支援など	石川県珠洲市	不特定多数
	西日本豪雨被災者支援	西日本豪雨被災者支援	災害支援	コミュニティ再構築、福祉の拠点づくり支援	岡山県倉敷市	地域住民（不特定多数）
	東北復興支援	東日本大震災被災者支援	コミュニティ支援	東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難者・移住者のコミュニティ支援	福島県	869人
	地域防災力強化	地域防災力強化	災害支援	防災・減災を目的とした研修などの開催、授業の提供など	日本全国	不特定多数
	犬の保護・譲渡	犬の保護・譲渡など	動物保護活動	犬の保護・譲渡、災害救助犬・低血糖アラート犬の育成など	広島県、岡山県、東京都、神奈川県、奈良県、静岡県	不特定多数
	馬の保護	馬の保護	動物保護活動	元競走馬の再トレーニング、ふれあい活動	福島県	不特定多数
	医療支援	医療支援	地域創生事業	過疎地の病院、診療所における診療支援	広島県	地域住民（不特定多数）
	芸術振興・まちづくり	芸術振興・まちづくり	地域創生事業	芸術作品の公開、観光施設の運営支援など	愛媛県、広島県、島根県	不特定多数
	Study in America	留学支援	教育支援	児童養護施設の子供の短期留学支援	日本、米国	6人

※受益者の算出について：村でのインフラ整備など、地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。

特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパン

ピースウィンズ

検索

 ピースウィンズ・ジャパン

 @PeaceWindsJapan

 @peacewindsjapan

本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL.0847-89-0885(代) FAX.0847-82-2949

東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL.03-5738-8020(代) FAX.03-3465-2112

佐賀事務所

〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F
TEL.0952-20-1607(代) FAX.0952-20-1608

Company Profile

■名称：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン ■設立：1996年2月 ■法人格取得：1999年10月 ■スタッフ数：計614人(国内スタッフ264人、海外現地スタッフ350人) ■代表理事：大西 健丞 ■理事：石井 宏明 桑名 恵 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏 ■監事：川合 孝一(2024年1月末現在)

✉ meet@peace-winds.org  <https://peace-winds.org>

寄付金控除の対象です

ピースウィンズは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりピースウィンズへの寄付は税金控除の対象となります。(正会員会費は対象外です。)

ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使用させていただきます。ピースウィンズの寄付金等取扱規程はWEBサイトでご覧いただけます。

お問い合わせは、支援者サービス係までご連絡、もしくはピースウィンズのWEBサイトをご覧ください

0120-252-176

平日 10:00~17:00

ピースウィンズ 受付

検索

<https://peace-winds.org/support>

